

姉妹都市との経済交流 ～広島市とモントリオール市～

ニューヨーク事務所

広島市とモントリオール市

広島市は、ホノルル市（米国）、ボルゴグラード市（ロシア）、ハノーバー市（ドイツ）、重慶市（中華人民共和国）、テグ広域市（大韓民国）、モントリオール市（カナダ）の海外 6 都市と姉妹都市提携を結び、青少年交流、スポーツ交流、技術提携等、様々な交流活動を行っている。

ボンバルディア本社を中心に航空機産業が集積しているモントリオール市とは経済交流の促進に力を入れている。姉妹都市提携 10 周年となった 2008 年には、モントリオール市及びその周辺地域との航空機関連分野での経済交流を促進するため、広島市は広島地域の航空機部品関連企業と連携して「広島航空宇宙研究会」を発足。2009 年には両市の航空宇宙産業の経済交流がジェットロの「地域間交流支援（RIT）事業」に採択され、以降、モントリオール市への専門家派遣や同市からの視察団受け入れ等を行っている。RIT 事業最終年度となる今年度は、2011 年 12 月にモントリオール市への専門家の派遣が行われ、2012 年 2 月には広島市での商談会が予定されている。12 月の専門家派遣に当たり、クリアとして初めて広島市の経済交流への支援を行ったので、その際の両市の経済交流について報告する。



モントリオール市

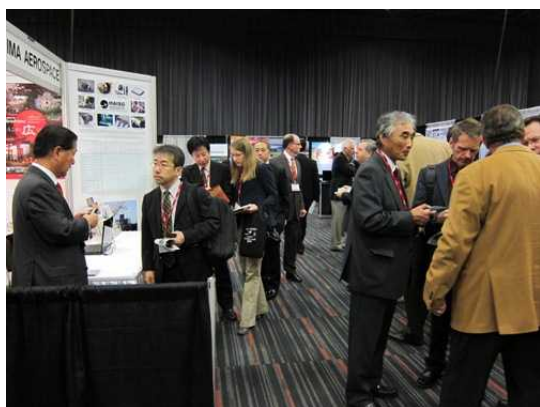
人口 169 万人（大都市圏では 385 万人）のケベック州最大の都市。ハイテク産業や IT、バイオなど先端産業が盛んで、1967 年の万国博覧会、1976 年のオリンピックの開催で国際的知名度が上がる。広島市とは 1998 年に姉妹都市提携を行い、経済交流や植物園交流のほか、平和記念式典や平和市長会議への参加等、平和交流も続いており、毎年 8 月 6 日（現地時間 5 日）には現地で平和記念式典が開催されている。

モントリオールで広島企業の技術力を PR

2011 年 12 月 4 日から 9 日まで、広島市から 6 名の経済交流団がモントリオール市を訪問し、「Aerospace Innovation Forum（AIF フォーラム）」に参加した。「継続可能なサプライチェーンの新機軸」をテーマに開催されたフォーラムでは、基調講演、ワークショップ、個別商談や展示ブースでの PR などが行われ、広島から派遣された専門家もパネリストの一人としてワークショップに参加し、広島航空宇宙研究会の活動や会員企業の技術紹介等

を行った。

フォーラムには、大学や研究機関の研究者、バイヤーあるいはサプライヤーを探している企業の技術担当者、自国企業の売り込みをする政府機関（米国、フランス等）、海外取引拡大を狙う各国企業、環境対策や高度な技術の PR をする企業や民間団体等、様々な目的を持った関係者約 700 人が参加した。広島市は展示会場にブースを出展し、広島航空宇宙研究会会員企業の技術力等の紹介及び広島の観光情報の提供を行った。広島から参加した企業 2 社に対しては、多くの研究機関や大学、企業の調達担当者などが興味を示し、活発な情報交換が行われた。訪問団はフォーラムへの参加のほか、現地の部品メーカーや大学、研究機関等を訪問し、広島の技術力をアピールするとともに、2012 年 2 月に広島で開催する商談会への招致を行った。



賑わう展示会場内(左が「広島航空宇宙研究会」ブース)



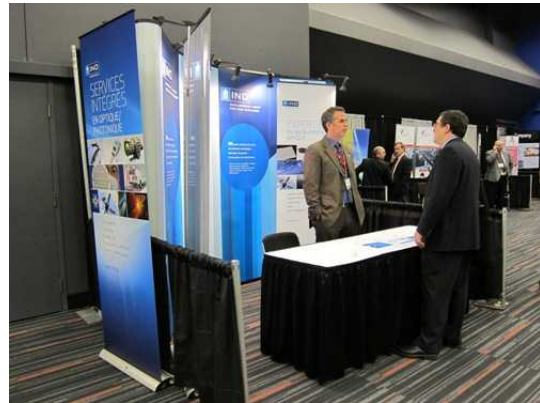
フォーラム全体会議の様子(カナダ政府経済農政大臣やボンバルディア社副会長の講演等が行われた)

より効果的な出展のために

展示会での出会いは正に「一期一会」。AIF フォーラムのブース出展では効果的な PR を行うため、来場者が求めているものは何か、出展者のニーズと合っているかをまず確認するよう心掛けた。フォーラムへは出展者も来場者もそれぞれ明確な目的を持って参加していたため、企業間のマッチングには効率的であったと感じた。一方、ブースづくりは国が違えばデザインや手法も異なり、日本国内では一般的な箱型&ポスター掲示のブースは広島ブースのみで、ほとんどはデザイン性があり視覚的にも美しいバナーを上手に使ったオープンスペースのブースであった。来場者にアピールしたい内容（今回の場合は広島企業の技術力）を目立たせつつ、話しかけやすいオープンスペースを作り出し、かつコストを押さえたブース作りをどのようにするかという点において大いに参考となった。繰り返し使用でき、コンパクトに丸めて持ち運びができるバナーは、汎用性のある内容を掲載するのであれば、使い勝手、コスト面においてパネルやポスターよりも優れていると感じた。しかし一方で、今回の広島ブースは、唯一の箱型ブースのためかえって目立つという効果があったことも事実である。



「広島航空宇宙研究会」のブース（壁面がたくさんあり多くの情報を伝えられる）



自立式スタンドバナーをふんだんに使ったブースの事例



大型パネルを使用した事例



パネルを最小限にしてオープンスペースを設けた事例（掲示物が近いので文字が読みやすく企業名に照明が当たり全体的に明るい印象）

地方行政機関との情報交換

訪問団は、モントリオール市にあるケベック州政府事務所やモントリオール市などの行政機関も訪問し、情報交換を行った。ケベック州政府においては、州政府の助成制度など広島市が今後活用できる可能性のある情報を得たのは大きな収穫であった。

モントリオール市関係者とは、経済担当の Chapleau 氏と国際担当の Lavoie 氏と面会した。Chapleau 氏との面会は、同氏と広島市関係者として情報交換を行うことで、両市の経済交流における連携強化を図ることが目的であった。初めて Face to Face で情報共有を行った今回の面会は、極めて有益であったと思われる。

Lavoie 氏は市長直轄である国際担当の顧問であり、広島市との姉妹都市交流における長年のコンタクトパーソンである。広島市からは 2011 年 4 月に就任した松井市長の海外姉妹都市との今後の交流方針などについて情報提供を行った。当方からは、クリア本部及びニューヨーク事務所の事業紹介を行うとともに、広島市とモントリオール市が良好な関係を継続できるよう全面協力する旨伝えた。同氏とは今後も連絡を取り合い、クリアとしても有益

な協力関係を築いていきたい。

市役所を訪問した際は、嬉しいハプニングがあった。広島市の担当補佐が（偶然ではあったが）モントリオール市の Tremblay 市長と面会することができたのである。市長から直接暖かい歓迎の言葉をいただき、広島市に対する熱い思いを感じる好機となった。



ケベック州政府事務所での広島企業のプレゼンテーションの様子

モントリオール市の Lavoie 氏（中央右）

今後の展開に向けて

広島市とモントリオール市の経済交流は、広島市、モントリオール市、ジェットロ、在日カナダ大使館、ケベック州政府、クリアック（ケベック州航空宇宙研究・革新連合体）等が一体となった共同事業として実施されている。今年度がジェットロの RIT 事業最終年度となるため、この協力体制も転換の期を迎える。この度、クリアとして初めて事業に係わったが、来年度以降はさらに積極的な支援ができればと考える。こうした活動は、広島市の海外経済活動にとって有益な支援となるだけでなく、クリアにとっても、自治体のニーズを知り、活動の幅を広げていく良い機会になると考える。

（牧所長補佐 広島市派遣）